

## 志賀原子力発電所 1号機 中間領域モニタに係る警報の発生について

第13回定期検査中の志賀原子力発電所 1号機において、平成24年 1月20日、中性子検出器の中間領域モニタ<sup>1</sup>（以下、「IRM」という。）の一つ（Aチャンネル）をバイパス<sup>2</sup>して検出器を炉心から引き抜き、自主的に機能確認<sup>3</sup>をしていました。

機能確認終了後、復旧を行う際、当該検出器を炉心から引き抜いた状態のままバイパスを解除したため、「IRM検出器未挿入」の警報が点灯しました。

その後直ちに（25秒後）当該チャンネルについて再度バイパスを実施し、警報は消灯しました。

志賀原子力発電所原子炉施設保安規定では、1系統3チャンネル（バイパス時は2チャンネル）が動作可能であるべきとされていますが、2チャンネルしか動作可能でない状態でバイパス解除したことから、「運転上の制限を満足していない状態」になりました。その後直ちにバイパスを実施したことにより、運転上の制限内に復帰しました。

本事象による設備への影響および外部への放射能の影響はありません。

### 1 中間領域モニタ

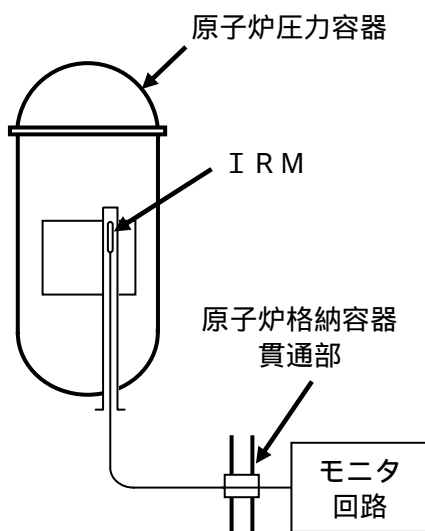
原子炉の停止中及び起動中に原子炉の出力を計測する装置（1系統に3チャンネル、全部で2系統・計6チャンネルある。）

### 2 バイパス

電氣的に設備から切り離す措置

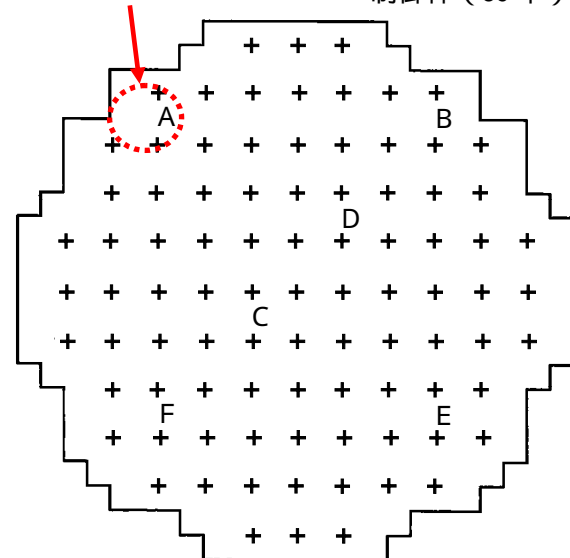
### 3 機能確認

ケーブル断線の有無等の確認



IRM概略図

IRM Aチャンネル  
(当該検出器)      IRM(6チャンネル)  
+制御棒(89本)



原子炉内IRM配置図